

コロナ収束願い獅子舞

みんなが元気に過ごせますように――。介護の現場では、再び緊急事態宣言が出される中、入居者と家族、スタッフが手を取り合いながら、コロナの収束を祈っている。三郷市の特別養護老人ホーム「三郷さくらの杜」では7日、職員手作りの獅子が舞い、入居者とスタッフの邪気を払い、無病息災を願った。

毎年開かれる新年祝いの会の目玉企画。昨年までは獅子舞の保存会で活動している入居者の家族が神奈川から駆けつけて舞ったが、コロナ禍で家族や外部のボランティアの立ち入りを制限しており、今年は8人のスタッフが段ボールや風呂敷、スズランテープなどを使って、1カ月前から獅子を作り上げた。入居者も髪の部分を手伝ったという。

獅子をかぶったスタッフ2人が約140人の入居者一人ひとりを回り、頭をガブリ。かまれた入居者は興奮気味に手をたたいたり、「いい新年が迎えられそうだ」と喜んだり。中には感極まって涙を浮かべる人も。獅子に入った生活相談員副主

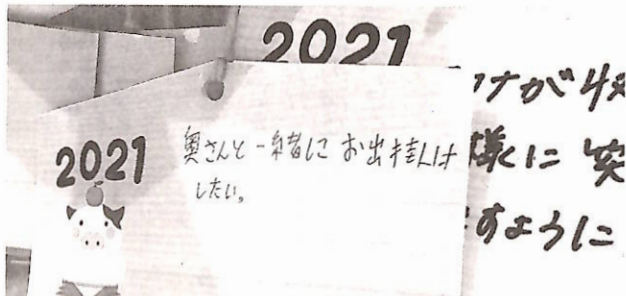
三郷の特養、一人ひとりガブリ

任の鈴木静香さんは「笑い声がたくさん聞こえ、楽しくなりました」。入居者らは絵馬に「家族に会いたい」「奥さんと一緒にお出掛けしたい」など書き、施設内に飾った。介護の現場では、見えないウイルスとの戦いに、緊張感を抱えながらの生活が1年近くにも及んでいる。三郷さくらの杜では、家族のぬくもりを感じてもらおうと、オンライン面会や1家族15分間の密越し面会を実施。感染防止策を徹底し、感染者は1人も出ていない。スタッフは厳しい自己管理を自らに課し、自宅と職場の往復以外は不要の外出を避け、多くが実家にも帰っていないという。

獅子が舞った直後、緊急事態宣言が出された。兼城貴子施設長は「これまで、これからもずっと危機感を持って対応し続けていく。少しでも入居者と家族がさみしさをまぎらわし、明るく元気に過ごしてもらえたら」と話し、一日も早い収束を願っている。
(加藤真太郎)



入居者の頭をかみ、邪気を払う獅子舞



入居者や家族が書いた絵馬。施設内の「さくら神社」に飾られた＝いずれも7日、三郷市の「三郷さくらの杜」撮影